

平成 30 年度サービス第三者評価結果（公益社団法人 全国有料老人ホーム協会）

法人名	医療法人社団陽和会	ホーム名	介護付有料老人ホームコート ローレル	ID	3015
	評価機関	株式会社ケアシステムズ		評価日	11月8日

スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A
1.1.2	B	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.3	B	B	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.4	B	B	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.2.1	B	B	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.2	A	A	2.3.8	A	非該当	6.2.4	A	A
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	B	B	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A
1.4.2	B	A	2.4.3	A	A	6.3.1	B	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	B	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	C	C
1.4.5	B	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	B	A	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	B	A	7.3.1	A	A
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	非該当		7.3.3	B	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	B	B
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	B	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
2.2.10	B	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	A	A	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
1-4-1	職階別の研修体系が明示された研修計画が策定されており、勤務調整を行い円滑に参加できるようにしている。キャリアパス制度も導入されており、目標管理シートを用いて年初に目標設定を行い、中間・最終などの期間を決めて評価を行い達成状況を確認する仕組みも整っている。また、評価シートに記載されている評価項目の意図を解説したマニュアルや面接方法に関するマニュアルなども用意しており、評価基準が標準化できるようにしている。公平な評価を進める仕組みが整っていることがうかがえる。
2-1-1	スタッフルームには経営理念の掲示に加え、理念実現に向けた介護科目標、月間接遇テーマも合わせて掲示したり、毎月開催している職員会議で理念を唱和したりして周知に努めている。また、職員のネームプレートケースに理念を記載したカードを携行できるようにして周知と意識付けを行っている。さらに、ホームページでも理念や運営方針、自主行動基準など明示し、職員、利用者、将来の利用者に向けて周知を図っている。
7-1-1	安全対策委員会による事故やヒヤリハットの報告を職員室に掲示しており、職員全員が目を通してチェックし、注意喚起を促している。ケガの経過観察が必要な場合も同様に掲示をしており、経過観察期間中の手順なども学べるようにしている。ヒヤリハットの掲示を始めてから事故が減っているとのことで、ヒヤリハット本来の気づきにつながる真摯な取り組みとして評価したい。
6-1-1	以前は1年に1回ケアプランの見直しをしていたが、入居者の実態に即した介護を目指して、現在は半年に1回行っている。また、ケアプランは、実際に介護士が介護する際の指標となるものでなければならないという考えの基に、3か月に1度介護士もケアプランを改めて読み込み、プランに従って介護が行われているかをチェックする機会を設けている。入居者に合わせたケアプランの作成に努め、そのケアプランを実施することを介護士が目指しており、ケアマネジャーと介護士、更に機能訓練指導員が一体となり、入居者への支援を実直に取り組んでいる。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
1-1-4	年度末には単年度事業の達成事項や未達成事項などの総括を行い、次年度の事業計画を策定する流れが整っている。事業総括や新たな計画策定に関しては職員参加のもとでなされており、ホーム一丸となって取り組んでいることがうかがえる。さらに、法人として策定している中長期計画をホームにおいても明示・共有し、事業の方向性を示し、利用者の安心、職員の意欲につなげることが望まれる。また、年度をまたがる事業については、中長期計画によって段階的な達成を示し、職員に共有し、利用者には展望を示すことが望まれる。
7-5-3	開設から6年経ち、利用者の高齢化も進むと共に、車椅子などの福祉用具を利用する入居者も増えているとのことである。福祉用具を必要とする場合には、個別機能訓練計画書に従い福祉用具を選定している。福祉用具は日々使用する中で、掃除や整備も必要となる。当施設では、車椅子などの汚れについては介護士が気づいた際に清掃をしており、機能訓練指導員は定期的に用具の安全性のチェックを行っているとのことだが、その記録は残っていない。器具の安全性を保つためにも、定期的なチェックと記録は必要と思われる。記録への取り組みも望みたい。